

上田女子 短期大学 通信

— vol.079 —
2016.3.15

→ Ueda Women's
Junior College ❀

CONTENTS

- Special edition ▶ ごあいさつ・新しい取り組み … 2-3
- Campus Life ▶ 受賞・地域への発信 … 4-5
- Campus Life ▶ 上田女子短大ライフ特集 … 6-7
- Information ▶ 進路サポート室情報 … 8

表紙撮影：総合文化学科2年（豊野高等専修学校出身）
鵜野瑞永



“One for all, all for one”



学長 小池 明

久しぶりにこの言葉が脚光を浴びました。ラグビー人気のお蔭です。もっと直接的な“*I for all, all for me*” というものもあります。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という分かりやすい訳で人口に膾炙しています。ラグビーのみならずこれを一般化して、己を犠牲にしても組織のために頑張るという精神の尊さを強調するのびったり、そして試合が終われば勝ち負けは措いて「no side」、即ち勝者も敗者もなく互いに相手を讃え合う。日本人気質に合う、琴線に触れるということでしょうね。個が集団に埋没してしまうのではなく、夫々が己を磨き、チームから期待されている役割を存分に果たすことでチームも自分も成長し、勝利や成功を勝ち取るというプロセス、何より切磋琢磨ということの大切さが込められている。

4月から新しい環境で仕事に就く人、2年生として短大生活の仕上げに向かう人、何らかの事情で原級に留まる人、様々とは言い条、学生生活で身に付けた学び方、協働精神を基に資質、個性を伸ばし、夫々の属する社会、組織のために力を発揮して戴きたいと願っています。自分ならではの特技、専門性、良さ個性によって個も集団も輝く—その様な組織、社会の担い手になって下さい。

昨年12月に亡くなった北野次登名誉理事長は学園の創立以来、事あるごとに学生、卒業生が幸せになって欲しいと言いつけてきました。幸せを掴むには自らの努力が鍵、人生の或る時期に振り返って、この短大で学ぶことを選んだ自分に感謝する、その様な学生生活で在って欲しいと望んでいます。



メインテーマは変わらない

幼児教育学科学科長 町田 育弥

本学に赴任して2年。私の担当ゼミから初めての卒業生を送り出すことになりました。

2年の間に私が彼女らに最も強く望み続けたこと、それは、「全ての行動を自身の意思表示として自覚し、正確な表現であるように努めて欲しい」ということだったように思います。それはなかなか難しいでしょう。他者からの評価を基準に、「なさい」や「べき」を頼りにする方が楽ちんだし傷つかないですむ。でも、失敗した時、何を反省すればいい？ ヒトのせいにするのか？ そりゃ違うだろ。君らが生きてること自体、史上はじめてのこと。生きていれば、それは誰にとっても毎瞬未経験の領域に踏み入るといふことの連続でしかない。だからジャッジは自分で下し続けるしかないのだ。正確であろうとすれば、一瞬の油断も許されない。そして、どんなに正確と思われる判断も、それが名付けられた時には過去となり、自分はもう未知の「今」にさらされている。この「私が私においてけぼりにされている」感触。意欲はここからわいてくる。そして、そこではとても謙虚でいられるはず。みんなに味わってほしいけれど、そのためにはまず、正確さを目指した無駄を承知の悪あがきをいとわないこと。やってみなけりゃはじまらないのだ。試してごらんよ。

新たに迎える一年生に、私はきっとまた同じことを言うだろう。



友たれ永く友たれ

総合文化学科学科長 大橋 敦夫

北海道大学の学生歌に、帝大時代以来のものがあり、タイトルのフレーズがリフレインされます。自然の恵みとキャンパスで学ぶ学生の変わらぬ友情がテーマです。

およそ学び舎に集う者であれば、その思いは古今東西、共通のものでしょう。最近、手にした書物にも、同趣旨の記述がありました。

十三、四歳の頃から、八十歳を過ぎる今日まで、クラス会をしたり、誘い合ったりして友人と仲良くできるのは本当に幸せなことだと思う。お互いに高齢なので亡くなる方もあるから、文字通り終生の友といえるかも知れない。

ふり返ってみると、境遇はまちまちであったが、お互いに助けを当てにしたことはない。友人がある、友人である、ということだけで心を支えられ、人間愛をよびさまされ、生きる勇気を与えられてきたように思う。(永井次代*『いっしょうけんめい生きましよう』講談社 1986)

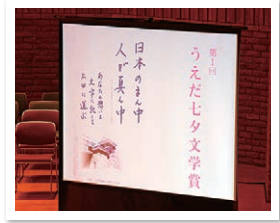
小生の祖母も、明治の末年生まれで、女学校時代の友人たちと半世紀以上のお茶のみを楽しんでいきました。

その場に直接立ち会うことは、あまり望めませんが、本学で学んでいる学生の皆さんの時間が、終生の宝となるよう、私たちも日々努力を重ねています。

*永井次代氏は、明治20年生まれ。戦前の大衆政治家、永井柳太郎氏の妻、元文部大臣・永井道雄氏の母。

第1回 うえだ七夕文学賞

本学と上田西高校は、上田の地から文化的な活動を発信することを目指し、今年度新たに「うえだ七夕文学賞」を創設しました。短歌、俳句、自由詩のジャンル別に、「生徒・学生の部」と「一般の部」を設けて作品を募集したところ、全国の2456人から3369作品が集まりました。来年度は園児・小学生まで枠を広げ、「異世代交流の場」としていきたいと考えています。



大学生の部
優秀賞
幼児教育学科1年
上田染谷丘高校出身
花岡 友美さん

短歌

「夏の空あの日と同じ澄んだ色
君が隣にいた頃想う」

実は恋愛ではなく、高校時代、いっしょに騒いで青春していた仲が良かった友だちを思い出して作りました。懐かしいけれど、今は違う道を進んでいるんだなあ。拙くとも、等身大の自分の言葉で書いた飾らない姿を評価してもらえてうれしかったです。違う世代の方たちの作品はすごく面白くて、もっと見てみたいと思いました。

大学生の部
優秀賞
幼児教育学科1年
関根学園高校出身
大嶋芽衣子さん

俳句

「陽炎がゆらゆら揺れる田舎道」

家の周りは田んぼが広がっていて、小さい頃はめいっぱい体を使って遊んでいました。夏の短大の教室で何か一句をひねり出そうと格闘中、暑い盛りに自転車で帰宅するときの光景を思い起こして句にしました。帰省したときに家に置いてきた入選作品集を目に留めた父が「額に飾っとくよ」と連絡をくれ、嬉しかったです。言葉を考えるのが思いのほか楽しいことに気づけたことが収穫でした。

大学生の部
入選
幼児教育学科1年
小諸商業高校出身
柏木 真生さん

自由詩

「私の好きな彼」

自分が生まれる前から家において、中学校3年生までずっといっしょに暮らした犬のことを、忘れたくないなあという思いで詩にしました。幼い頃は家族、もう少しするとちょっと距離をおいてモノのような感じ、そしてなくてはならない存在になっていった、犬に対する自分の気持ちの変化を客観的に見られておもしろかったです。たくさんの方に「いい詩だね」と声をかけてもらい嬉しかったです。

芸術の森 ～北野講堂シリーズ2015～ 垣根のない室内楽の饗宴 秋空のSymposion

日本を代表する名コンサートマスター豊嶋泰嗣氏（ヴァイオリン）をお迎えし、「秋空のSymposion ～垣根のない室内楽の饗宴～」というタイトルで開催。その名のとおり、全プログラムがトッププロと本学学生、音大生、本学教職員によるアンサンブル、という形態で演奏されました。本学からは有志学生の他、町田教授（音楽）、西山教授（国文学）、安達課長（学生支援課）も参加。本学からの「発信」の新たな可能性を感じるひと時でした。



幼児教育学科2年 小諸高校出身 清水 美郷さん

クラリネット奏者の音大生をトップに、本学の先生2人と学生有志7人のアンサンブルでガーシュインの「ラプソディ・イン・ブルー」を演奏しました。私はバスクラリネットを吹かせてもらっていました。小学生の頃からずっと楽器を続けて来ましたが、今回改めて大勢であわせる楽しさを実感するとともに、ステージで多くの人たちに拍手をいただき感激しました。いつか町の吹奏楽団に入れたらいいなあと思います。



■ 西山秀人 総合文化学科教授

日本文学を研究するかわら、ピアノの演奏にも取り組んでいます。普段はジャズとポップスを弾いて楽しんでいます。今回は弦楽四重奏と共演するという楽しいひとときを過ごしました。演奏を聞いた方から「最高だった」と、嬉しいメッセージもいただきました。

幼児教育学科1年 長野清泉女学院高校出身 遠藤 智子さん

中、高と吹奏楽部、今はアンサンブルサークルでサクソスを吹いています。演奏会に出演する先生と学生たちで練習を重ねて当日を迎えました。プロと合同の演奏はリハーサルと本番のみ。空気感の違いやプロの力をひしひしと感じて、すばらしいなあと思うのと同時にあこがれを感じました。弦楽器と合わせる機会は少ないですが、互いの響きを生かせる演奏の技術を身に付けたいと心から思いました。



■ 安達寛子 学生支援課課長

本学での仕事と並行して、ソプラノ歌手として、リサイタルも開いています。弦楽四重奏との共演は、普段なかなか機会がなく、何にも変えがたい至福の時でした。今回の音楽会は、学生や教職員の垣根を越えて音楽を発信するという本学らしいコンサートで、すばらしいと感じました。

第2回 長野県私学振興大会

国語研究倶楽部書誌研究会が
理事長表彰受賞



教室で学んだ司書の知識を、実践的に活用する場を求めて、これまで学生の皆さんと共に、県内のさまざまな場所に赴きました。更埴市教育資料館・格致学校歴史民俗資料館・寺子屋師匠宅山城家・園里学校・須坂市立博物館等で、それぞれの施設が所蔵する往来物や戦前の教科書等を対象に、目録作成をお手伝いしました。

今回は、長野市の作新記念館（市指定文化財）での作業が評価されました。その成果は、間もなく目録に仕上がりますので、ご覧いただければ幸いです。

■ 総合文化学科2年 飯田風越高校出身 市瀬 里保さん

■ 総合文化学科2年 塩尻志学館高校出身 清水 柚果さん

長野市にある下水鉋小学校の前身・作新学校の本館建物で、市の文化財に指定されている作新記念館2階に残る図書資料の書誌情報をまとめて目録をつくる作業をしました。1年生のときに、先生から提案を受けて研究会を発足。昨年度と今年度の夏休みに2日間ずつ行いました。図書資料は明治期の教科書で、そのほとんどが和綴じ本。7人がかりで、約1000冊の記録を取りました。和綴じ本の扱い方を学んだり、当時の教科書の内容に触れたりなど貴重な体験となりました。

手付かずの図書資料もたくさんあるので、今回の表彰をきっかけに、後輩にも活動を知ってもらい、是非引き継いでいってほしいと思います。



（上田女子短期大学地域連携センター活動報告）

あなたがまん中～小池学長と語ろう!

体育大会出場 部・サークル編

長野県内8つの私立短大が参加する「県私立短大体育大会」が、上田市内3会場で開催されました。12月1日に、出場したバレー部と、バスケット・バドミントン各サークルメンバーを招き、小池学長と鍋を囲んで交流を深める親睦会を学内で開きました。

●短大の運動系の部やサークルにはどんな意義がありますか？

◇学長／教室だけではもの足りないだろうから、何でもやればいいと思う。スポーツは勝てるばかりじゃない。むしろ負けることの方が多い。負けると次は勝とうと考えるでしょ。「NG=Only Muscle no brain」筋肉だけで頭がないのはアカンよ。たくさんの経験は財産になる。

幼教2年 保坂紗和子さん（高田商業高校出身）／バレー部では19人が活動中。週2回、放課後に練習をしています。今回は勝てる気がして、結果3位になれてうれしかった。1年生が2人だけなのが心配。新入生にたくさん入ってもらい活動を盛り上げていってほしいです。

幼教2年 宮下菜さん（新井高校出身）／バスケットサークルは2年生が29人、1年生が3人。この大会は4位でした。途切れていた活動を私たちの代に復活させました。週1回の練習は楽しくて、心身ともにリフレッシュできる時間です。

幼教1年 井部晴香さん（柏崎常盤高校出身）／ずっと勝ちにこだわったバスケットをやってきたけれど、今は先輩や同年の友達と仲良く練習を楽しんでいます。高校の後輩が入ってくれそうで、来年も今年以上に頑張りたいです。

幼教1年 田地野早紀さん（新津南高校出身）&関真由樹さん（上田千曲高校出身）／バドミントンは総合3位。私たち2人は高校でバドミントン経験があり、助っ人でダブルスに出場。学長のまさかの本気の声援がうれしかったです。練習に参加して来年は優勝を狙いたいと思います。



県外出身者（紫苑寮を除く）編

参加者は本学に通う県外出身者。1月12日に、小池学長と交流を深める親睦会が開かれました。北海道釧路市、山梨県韮崎市、新潟県新潟市など様々な場所から集まってきた17人が、「上田暮らし」で驚いたことや嬉しかったことなどを話題に楽しいひと時を過ごしました。

●一人暮らしをしている学生へアドバイスをお願いします。

◇学長／多様化の時代、皆さんは、いろいろな地域から集まってきました。高校生になるまで過ごしてきたふるさとを離れて、この地に来たわけなので、積極的に新しい地域に飛び込んで、いろいろな体験を深めて、同時に自らを律して、自立心を育てていってほしい。

総文2年 留田充絵さん（北海道星槎国際高校出身）／最初は、病気のように相談するところもわからず不安でした。でもここには、友だちをつくりやすい環境があり、みんなが優しく親切で、生涯付き合えるいい友だちがたくさん出来ました。

幼教2年 村田陽菜さん（柏崎常盤高校出身）／この短大の良さのひとつは、高校生の頃よりもずっと、先生とのコミュニケーションがとれることです。親がいなくて困ったときに、先生に頼ることができて心強かったです。

幼教1年 猪股雛さん（帝京第三高校出身）／最初はホームシックにかなり不安でしたが、この1年で、規則正しい生活と自炊の自信が付き、友だちがたくさんできました。やるときはやる、遊ぶときは遊ぶというように、生活にメリハリをつけることが大事と感じています。

幼教1年 大島梨菜さん（高田北城高校出身）／時間に縛られずに、好きなことができ、友だちとコミュニケーションを深められたのがよかったです。一人暮らしで大切なのは、規則正しい生活を送ること、何でも相談できる友だちをつくることだと思います。

幼教1年 平井優美さん（高田商業高校出身）／一人暮らしで大事なものは、時間にルーズにならず、授業にはきちんと出て規則正しい生活を送ることに尽きます。これを守ると一人暮らしのよいところを満喫できます。





地域への発信

2015年度の 研究会・公開講座・コンサート

第38回 児童文化研究会



日時：平成27年12月19日（土）
講師：中村 紘子先生（福音館絵本研究室 社外講師）
講演：「子どもと楽しむ絵本の世界」

本年度は中村先生をお招きし、子どもが絵本から与えられる実に豊かな世界と、大人が絵本を選ぶ際の楽しさと難しさについて貴重なお話をいただきました。

幼児教育・保育に関わる方々、そして子育て中の若い保護者の方々も多く参加されました。幼児教育学科の学生も全員が聴講し、参加者数は300名ほどになりました。

総合文化研究会



平成27年10月17日（土）、総合文化研究所第14回大会が行われ、「北陸新幹線延伸から半年 見えてきた課題と今後のビジョン」と題したシンポジウムを開催いたしました。

北陸新幹線の長野県内駅を代表して、「軽井沢」「上田」「長野」「飯山」の各観光協会の方々を招聘し、新幹線延伸を活用した誘客のための取り組みや成功事例の紹介、半年経過して見えてきた課題などをテーマにパネルディスカッションを行い、各地域で取り組んでいる様々な情報を共有することができました。

♪新春コンサートと美術展



四半世紀にわたって開催されている新春コンサートは、今年で第26回となりました。芸術コース（音楽）の在校生とその卒業生によるピアノや声楽の演奏に加え、110名を超える幼児教育学科合唱団と、音楽コース合唱団によるハーモニーが北野講堂にひろがりました。また、会場には芸術コース（美術）の学生が制作した創作凧や陶芸作品、木育教材作品が展示され、会場が華やかに彩られました。（1月17日）

幼児教育学科 公開講座 『健やかな生活を送るための身体づくり』



昨年6月の講座では、日常生活の中で実践できる手軽な運動やノルディックウォーキングによる健康維持の方法を紹介しました。日本人に足りないと言われている1日の歩数をあと1000歩増やせるよう、今の生活に10分の身体活動を取り入れる工夫と継続するためのコツを受講者の皆さんに楽しく体験的に学んでいただきました。（6月11日）

4大学リレー講座 『遊ぶ子どもの姿から、遊びがもつ意味を考える』



上田市内4大学によるリレー講座で、今年は幼児教育学科の酒井真由子専任講師が、「遊ぶ子どもの姿から、遊びがもつ意味を考える」をテーマに講義。泥水に入って遊ぶなど、大人には無秩序、無駄に見える遊びも、子どもには「夢中」になれる大切な遊びであることなどを話しました。市民49人が受講。上田東高校から幼児教育に関心がある1年生5人の参加もありました。（11月28日）

Campus Life

県私立短大 体育大会

9月11日、長野県内8つの私立短大が参加する「県私立短大体育大会」が上田市内3会場で開かれました。今回は本学が主管校として大会を運営。バレー、バスケット、バドミントンの3種目に男女170人の学生たちが熱戦を繰り広げ交流を深めました。



バレーボール部
幼児教育学科2年 穂高商業高校出身
長瀬 千華さん

小学校からずっとバレーボールをやってきました。高校の部活卒業で終わりにしようと思ったのですが、やめてしまうと今度は無性に寂しくなり、短大でも続けることに。この大会には、初めてキャプテンとして出場し、3位という結果を残せました。賞状と一人ひとりにメダルをいただき、とてもうれしかったです。バレー部の活動があったことで、充実した毎日を過ごせました。

バレーボール部
幼児教育学科1年 穂高商業高校出身
遠藤 真奈海さん

メダルがかかった3位決定戦は、2セット目をとられ、3セット目は、必死に頑張って競り勝てました。みんなで一生懸命戦って勝てたときの喜びは最高です。入部してから出場した2大会は、連続で大敗していたので、この大会での一勝が本当にうれしかったです。先輩15人のバレー部の1年生は2人だけ。新1年生の勧誘に力を入れて、来年も試合に出られるようチームをつくりたいです。

学海祭



幼児教育学科2年
丸子修学館高校出身
原田 真夢叶さん

今年の学海祭のテーマは「百花繚蘭—今ここに咲け」。みんなでひとつの文化祭を創り上げるイメージを、花びらの多い華やかなバラに託して描きました。街中に貼られたポスターやパンフレットを見た友だちや家族に「かわいい」「目につく」などの声をかけてもらうれしかったです。ポスター製作を担当できたことに感謝しています。



被災者への寄附

今年度も学海祭を実施することができました。お越しいただいた皆様、ありがとうございました。実行委員の学生は苦勞の連続だったと思いますが、これも良い経験になったはず。そして、露天のテントで告知したとおり、売り上げの一部を「常総市鬼怒川」で発生した水害の義援金として寄附しました。

遊び プロジェクト

幼児教育科1年生が子どもとの関わり方を学ぶ授業の一つ。体育館に、11のゼミがそれぞれ企画、準備してきた遊びのブースをつくり、附属幼稚園の年長児60人を招待。会場にやってきた園児たちは大喜びで、宝探しや迷路などの遊びを思い切り楽しんでいました。

幼児教育学科1年 甲府昭和高校出身
柳澤 優子さん

私たち「小川ゼミ」は代々「魚つり」をテーマにした遊びを計画しています。今回は、子どもたちがダンボールの大きな船に乗って、魚釣りを楽しむ企画にしました。準備中、魚を釣るひもの先と、釣られる魚の先端の材質や形状についてみんなで考えましたが、実際にはそれよりも、魚を釣る動作の「得意」「不得意」の個人差が大きいことがわかりました。当日は、船がパンパンになるほどの盛況ぶり。子どもたちへのアンケートと先生方の評価で、優勝のごほうびをいただきました。

幼児教育学科1年 高田商業高校出身
渡辺 莉奈さん



古都研修

総合文化学科の1、2年生120人が1泊2日の日程で、古都研修を行いました。普段の学びの実地研修として、初日は鎌倉の鶴岡八幡宮と小町通りを散策し、2日目は横浜のホテルニューグランドと赤レンガ倉庫を見学しました。

総合文化学科1年 小千谷高校出身
金子 ちづるさん

鶴岡八幡宮からほど近い小町通りが印象に残りました。鎌倉駅まで続く通りは、平日にもかかわらずたくさんの人であふれていました。気軽に食べ歩ける食べ物屋や鎌倉らしい和風のグッズを集めた土産屋が多く、食べ歩きや買い物を楽しみました。鎌倉と横浜の魅力を十二分に味わった2日間でした。



幼児教育 学科

1月6日、幼児教育学科の2年生全員が、所属するゼミごとに卒業研究発表を行いました。学生たちは仲間の興味深い発表に熱心に耳を傾けるとともに、互いに1年間の研究成果を認め合っていました。

「愛着形成について」

■ 幼児教育学科2年 上田東高校出身 原沢 優佳さん

「どうせ私のこと好きじゃないでしょ」。実習先で出会った園児の寂しい発言の背景に、親子間に愛着形成ができていない現状があることを知りました。自分が愛されているという感覚無しに、他者を愛する気持ちは生まれえないのではないか。そんな疑問から、愛着形成とは何かを考えました。乳幼児期に親子間に築いた関係は、人との関係に生涯にわたり影響を与えます。研究を通して、家庭環境は周囲の支えによっても改善できることがわかり、保育者は、保護者といっしょに育てるという姿勢で支援していくことが大切だと学びました。

卒業研究 発表会



総合文化 学科

1月27日、総合文化学科生全員が参加して、卒業研究発表会が開かれました。6つのゼミの代表者が、それぞれ1年かけて取り組んできた研究の成果を発表。多岐にわたるテーマの研究発表に、学生たちは真剣な表情で聞き入っていました。

「3DCG制作」

■ 総合文化学科2年 東御清翔高校出身 町田 菜奈美さん

3DCGは、立体的に生成されたアニメーション映像の総称です。以前から興味があった3DCGモデルを自分で作り、躍らせてみたいと思い、卒業研究のテーマとして取り組みました。始めてはみたものの、ソフトウェアの操作に苦戦し、本当に出来るのだろうかと不安に思った時期もありました。それだけに、ようやく自作モデルを完成させ、踊っている姿をお披露目できたことに、大きな達成感を感じています。



海外研修



2月15日～18日、異文化交流を深めるための特別プログラム「海外研修」が、グアムで行われました。幼教と総文両学科の33人が、保育所や海外ウェディングで人気のチャペルなどを見学しました。

■ 総合文化学科1年 小諸高校出身 横山 塔子さん

2日目に見学したホテルニッコグアムのシーサイドチャペルは、グアムならではのロケーションがすばらしいところで、海外ウェディングの魅力を肌で感じることができました。

剣道部



長野大学生と活動中

■ 幼児教育学科1年 高田北城高校出身 池田 里奈さん

入学して間もなく剣道つながりで知り合った友だちと、掲示板の「剣道部員募集」の張り紙を見て意気投合。長野大学へ見学に行き、さっそく入部しました。小、中と続けてきた剣道を高校ではやらなかったことへの後悔があり、大好きな剣道を存分に味わい、楽しんでみたいと思います。

■ 幼児教育学科1年 須坂高校出身 富井 美帆さん

ダンスに卓球、イラストの3つのサークルと兼部なので本格始動はこれから。高校の頃の感覚に戻せればと思います。ずっと剣道を続けている高校生の妹が、実力をつけてきて悔しいので、彼女に勝てるくらい強くなりたいです。男子との稽古にも積極的に取り組んで力をつけていきたいです。



部・サークル 紹介



アンサンブルサークル

■ 幼児教育学科2年 小諸高校出身 高木 浩美さん

週に3回、2年と1年7人ずつ、計14人が集まって練習しています。クラリネットを中心に、トランペット、トロンボーン、サクソ、パーカッションで編成。学海祭がメインの発表の場ですが、来年度は自主企画の演奏会も目論んでいます。



茶道サークル

■ 総合文化学科2年 さくら国際高校出身 小山 真輝さん

活動の中心は学海祭のお茶会です。稽古は、毎週火曜日の2限と3限、学内の茶室「信養庵」で。3人の先生に、ほぼマンツーマンで教えていただいています。普段とは違うゆったりとした贅沢な時を感じられるのが一番の魅力。礼儀作法も学べます。



ブライダルサークルMIP

■ 幼児教育学科2年 軽井沢高校出身 服部 麻実さん

オープンキャンパスでの模擬挙式と、学海祭はじめ地域の病院や福祉施設で行っているファッションショーの企画、運営をしています。サークルでドレスを所有していて、試着会では様々なデザイン衣装を体験することもできます。みんなで創り上げていくのが楽しい活動です。

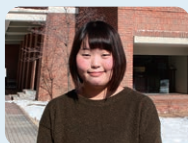
卒業後の進路は無限大!

本学では、平成27年度よりキャリア教育科目として「キャリアアップ」を開設しました。社会人としての常識を身につけ、自らの人生について自分で考え行動することができる女性の育成を目指しています。就職活動は新しい自分を発見する

チャンスです。広い視野を持ち、様々なことに積極的に挑戦することで将来の可能性が広がります。卒業時に自らが選んだ進路に向けて、自信と希望を持ち巣立つことができるよう、教職員一丸となって支援しています。

ウィンターセミナー

3月の就職活動解禁を目前に控えた1月27日、総合文化学科の1年生を対象に就活を知るための講座「ウィンターセミナー」が開かれました。セミナーでは、就職情報を専門に扱う企業の担当者が、今後の就職活動の進め方を説明。その後、社会人を交えた5つのグループに分かれ、その人にどんな仕事に向いているのかを考え、発表するグループワークを行いました。



■ 総合文化学科1年 中野西高校出身 **木村 朱里さん**

旅行業関連の仕事に就きたいと考えていましたが、セミナーで一つの職種に絞るのではなく、視野を広げている色々な業種に目を向けていってはどうかとのアドバイスをいただきました。私の中では、就活という言葉だけが大きくな

って、具体的にどう動けばいいのかなどは理解できていなかったで参考になりました。まずは、学内で行われる合同企業研究セミナーに向けて、参加企業の情報収集をするなど、積極的な企業研究を進めていきたいと思っています。

就職活動を終えて

保育士に
内定

幼児教育学科2年
須坂東高校出身
篠塚 歩実さん



春から長野市内の私立保育園で働きます。面倒見のよい母の影響か、将来は保育者になりたいと考え、資格の取れる本学に進みました。就活は2年生の6月から。実家から通える保育園をピックアップして、見学に行き、自分に合うところを探しました。面接が不安でしたが、進路サポート室の先生が何度も練習をしてくださったおかげで自信を持って臨めました。希望の道を拓くためにも、自ら早め早めに動くことをお勧めします。



総合文化学科2年
野沢南高校出身
青木 愛さん

事務職に
内定

総合病院の看護部長室事務に内定しました。当初は医療事務に絞って活動を始めましたが、進路サポート室で「視野を広げればチャンスも増える」とアドバイスを受け、合同企業説明会などにも参加しました。1年生の3月からは、空き時間を見つけて、どんな企業からの求人があるのかを調べに進路サポート室に通うようにしました。少しでも興味があれば積極的にチャレンジしてみることが大事。そう考えることができ、内定をもらえるまでの力がついたのも先生方のおかげと感謝しています。

資格報奨金獲得者

■ MOSマスター

総合文化学科2年 (上田西高校出身) **山崎 愛莉さん** 30,000円

■ 実技技能検定協会主催秘書技能検定2級

総合文化学科2年 (星久島おむろ高校出身) **星野 亜実さん** 10,000円

■ MOSエクセル&ワード

幼児教育学科2年 (野沢南高校出身) **小林 咲輝さん** 10,000円

総合文化学科2年 (東御清翔高校出身) **町田 菜奈美さん** 10,000円

総合文化学科2年 (上田西高校出身) **山崎 愛莉さん** 10,000円

総合文化学科2年 (甲府東高校出身) **古屋 優菜さん** 10,000円

総合文化学科2年 (星椋国際高校出身) **留田 充絵さん** 10,000円

総合文化学科2年 (系魚川高校出身) **猪又 友里さん** 10,000円

総合文化学科2年 (丸子修学館高校出身) **宮崎 優希さん** 10,000円

総合文化学科2年 (上田千曲高校出身) **樋口 真衣さん** 10,000円

総合文化学科2年 (穂高商業高校出身) **上條 彩音さん** 10,000円

総合文化学科2年 (中野立志館高校出身) **廣瀬 いくみさん** 10,000円

総合文化学科2年 (さくら国際高校出身) **小山 真輝さん** 10,000円

総合文化学科2年 (小諸商業高校出身) **白井小百合さん** 10,000円

北野学園名譽理事長
北野次登先生
ご逝去について

北野学園名譽理事長 北野次登先生が平成27年12月19日に92歳でご逝去されました。ここに謹んでお知らせいたします。北野名譽理事長は、昭和48年3月本学設立と同時に理事長に就任され、「敬愛・勤勉・聡明」を建学の精神として学園の礎を築かれ、平成27年3月に退任されるまで、40年以上にわたり大学の発展に寄与されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

2年生のみなさんは、いよいよ卒業ですね。短大で過ごした2年間はどうか? 楽しかった事、辛かった事、沢山あったと思いますが、あっという間に過ぎてしまったのでは? 良い友達は出来ましたか? 学生時代に会った友達は、お金には換えられない一生の財産になりますよ! これからまたひとつ新しい世界の始まりですね。この先どんな出来事が待っているのかワクワクして下さい! (敬)



学校法人 北野学園

上田女子短期大学

幼児教育学科 / 総合文化学科



〒386-1214 長野県上田市下之郷乙620 TEL0268-38-2352代 FAX0268-38-7315 E-mail adoffice@uedawjc.ac.jp
入試事務室 0120-375901 <http://www.uedawjc.ac.jp>